



作品名

—10年後の新幹線に負けない— 駅弁で盛り上がる北の町

コンセプト

自作にこだわり、北海道らしさを詰め込んだジオラマ

参考にした場所など

函館本線 森駅とその周辺

作品のみどころ

「にぎやかな」森駅の表現



プラ板とプラ棒を組み合わせて細かい部分まで作り込んだ、森駅といかめしを販売する商店のある駅前の風景を製作しました。

また、市販の人形を活用し、その一部をいかめしの店員風に塗装し直しています。

これらの人形を駅前やホームに集中して設置し、いかめしの看板と組み合わせることで、駅弁で賑わっている様子を表現しました。

人形は、「店員」「観光客」「地元の人」といった立場を考えて配置しているので、人形を見つけたらぜひストーリーを想像してみてください。



見ていて飽きない細かい情景



鉄道橋や道路橋の柵、留置線への分岐も、すべて自作しています。1ミリ単位のプラ棒の接着や、リアルさを追求した着色は、骨が折れる作業でした。見ていて飽きないような製作にこだわっています。

北海道らしさを詰め込んだ風景



この作品の舞台である北海道の自然の風景から特徴を考え、作品に「北海道らしさ」を反映しました。海の塗装、草の接着は失敗の連続でしたが、最終的にはこの作品のコンセプトに適しているような仕上がりにになりました。

この作品において海は裏側になっているため、見えづらい部分もあると考え、背景として鏡を設置しています。鏡の中に広がる世界もお楽しみください。